
経営統合に関して

2007年7月4日

株式会社プロダクション・アイジー 株式会社マッグガーデン

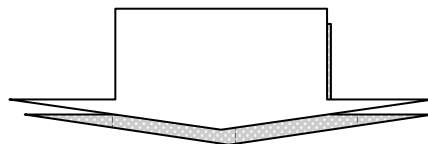
1.経営統合の背景

アニメーションを巡る環境

- アニメーションDVD
市場の低迷
- DVD販売のみを収益としたビジネスモデルの後退

コミックを巡る環境

- コミック雑誌販売部数の減少
- モバイルコミックスの伸長等
紙からネットへのシフト傾向



●ただし、優れたコンテンツへの需要は衰えず、アニメ/コミックともメガヒットは生まれている。

⇒コンテンツ開発力の優劣が、企業の生き残りを分ける！

2.両社の戦略と統合の目的

プロダクション・アイジー

- コンテンツを源流から押える。（原作権の確保）
- TVシリーズ作品にはコミック原作を数多く活用。

マッグガーデン

- コミック原作をアニメ・ゲーム・モバイルなどマルチメディア展開

-
- 高い制作能力を有するプロダクション・アイジーとコミック原作を数多く保有するマッグガーデンの統合により、事業シナジーを創造

3.両社の概要

株式会社プロダクション・アイジー

日本を代表するアニメーション制作会社

○アニメーション制作能力では日本のみならず世界から高い評価を得る。

○「イノセンス」の海外販売や「IGPX」の海外との共同制作など、海外との強力なコネクションを保有。

○子会社にTVシリーズを中心に制作を行う株式会社ジーベックがあり、マッグガーデン原作のアニメ化は実績あり。

○コンテンツの著作権を押え、収益の極大化を目指す。

株式会社マッグガーデン

原作を多数保有するコミック専門出版社

○保有するコミックタイトルは106タイトルにのぼる。

○コミックの累計単行本販売数は2600万部

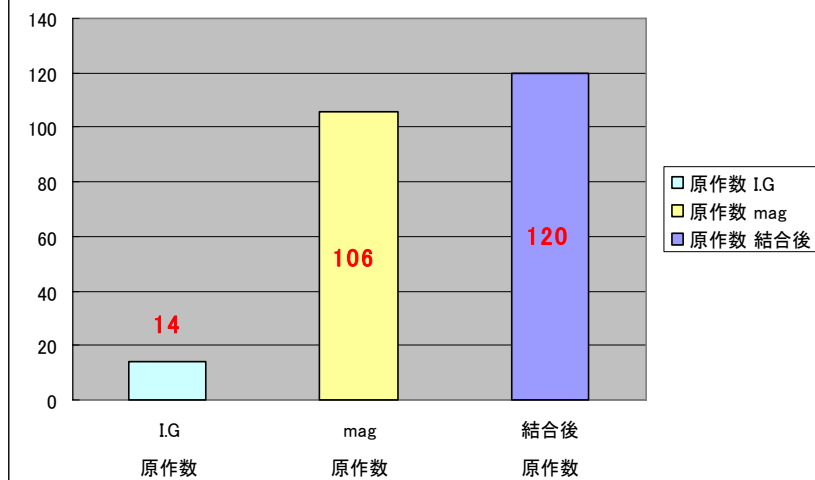
○コミックのアニメ化を積極的に推進しており、これまでに8タイトルのアニメ化に出資。全タイトルの商品化窓口化権を保有。

○「ARIA」シリーズでコミック累計販売数300万部・DVD30万本などの大ヒット作のアニメ版權を保有。

4.両社の概要(原作とアニメ版權)

原作保有数

各社の原作保有数対比表

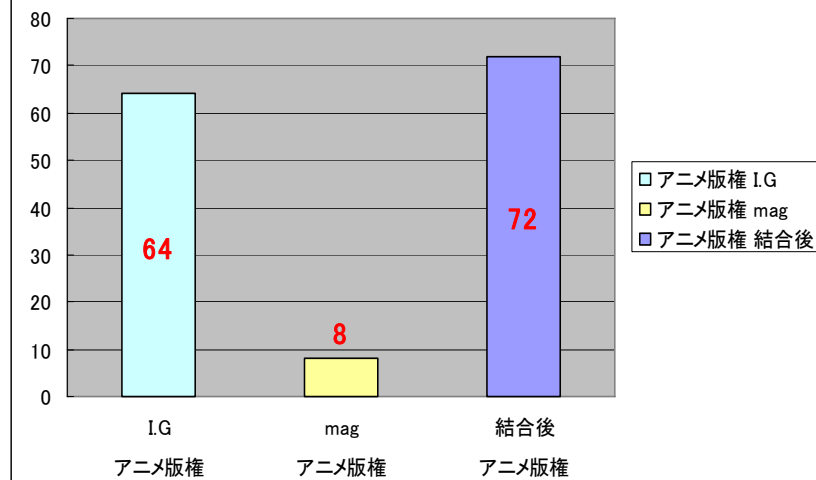


※単位:件

※マッグガーデンの原作数は正確にはコミックの出版権および原作の2次的使用の窓口を原著作者である漫画家から委託を受けている作品の数。

アニメ版權保有数

各社のアニメ版權保有数対比表



※アニメ版權には一部ゲーム作品で印税が発生するものも含む

●両社の統合で、原作保有数とアニメ版權の分野で大きな補完関係を構築

5.両社の概要(単純合算)

単位:百万円

	(株)プロダクション・アイジー (連結)	(株)マッグガーデン	経営統合後 (単純合算)
決算期	2007年5月期 (予)	2007年3月期	
売上高	5,400	1,845	7,245
経常利益	250	-100	150
経常利益率	4.6%	-5.4%	2.1%
資本金※	698	540	1,238
総資産※	4,542	1,859	6,401
社員数※	181	32	213
業態	アニメーションの企画・制作	コミックの企画・出版	コミック + アニメーション の企画・制作・出版

※(株)プロダクション・アイジーの資本金・総資産・社員数は2007年11月中間期

(株)マッグガーデンは前期大きく赤字を出しているが、財務リストラを行い、いわゆる「うみを出した」状態である。今期以降は業績回復が見込まれる。(次頁参照)

6.株式会社マッグガーデンの現状(BS)

単位:百万円

	科目	17/3月期	18/3月期	19/3月期	17/3~18/3	18/3~19/3	
		金額	金額	金額	差額	差額	
資産	流動資産	現金及び預金	172	427	418	255	-9
		売掛金	1,642	1,475	1,198	-167	-277
		製品	273	225	124	-48	-101
		繰越税金資産	31	57	11	26	-46
		貸倒引当金	-1	-1	0	0	1
		その他	35	33	44	-2	11
		流動資産合計	2,155	2,217	1,795	62	-422
	固定資産	有形固定資産	5	4	3	-1	-1
		無形固定資産	0	30	31	39	-8
		出資金	98	9	0	-89	-9
繰越税金資産		33	48	0	15	-48	
その他		70	39	28	-31	-11	
	固定資産合計	207	140	63	-67	-77	
	資産合計	2,362	2,358	1,859	-4	-499	
負債	流動負債	買掛金	409	362	298	-47	-64
		短期借入金	730	850	550	120	-300
		未払費用等	230	141	54	-89	-87
		前受金	18	5	2	-13	-3
		預り金	5	5	26	0	21
		返品調整引当金	117	119	81	2	-38
		その他	0	0	0	0	0
		負債合計	1,512	1,484	1,013	-28	-471
資本	株主資本	資本金	451	451	540	0	89
		資本剰余金	396	396	485	0	89
		利益剰余金	2	26	-180	24	-206
		新株予約権	0	0	0	0	0
		資本合計	850	874	845	24	-29
	負債・資本合計	2,362	2,358	1,859	-4	-499	

①製品(在庫)

コミック単行本在庫を大幅に減損処理しており、今後の製品減損リスクの軽減。

②出資金

アニメ作品への出資分(8作品分)を全て費用化して前期に落としており、今後の著作権収入は全て利益となる構造。

③繰延税金資産

繰延税金資産も取り崩し、今後の利益回復によっては、再度計上可能な状況にある。

7.経営統合後の目指す姿

原作の企画から映像化までをカバーするコンテンツプロバイダー

中期目標イメージ(2011年5月期)

売上高 84億円

経常利益 8億円(経常利益率9.5%)

両社のこれまでのコンテンツ資産を活かし、マルチメディア展開

プロダクション・アイジーの高いブランド力とコネクションを活用

クリエイティブの尊重という基本精神を忘れず、優良コンテンツを創造

8.経営統合による見込めるシナジー効果

コスト効果	上場コストの削減	<ul style="list-style-type: none">・マッグガーデンはIGポート(仮称)傘下入りに伴い上場廃止。・年間約5,000万円のコスト削減効果が見込める
事業シナジー	マッグ原作のアニメ化	<ul style="list-style-type: none">・マッグガーデンが保有するコミック原作をアニメ化・原作から映像化までひとつの企業グループで一環して制作可能
	ネット・モバイルへの共同展開	<ul style="list-style-type: none">・コンテンツホルダーとしてネット・モバイルへのコンテンツ提供窓口の一本化。・マッグの原作ライブラリーとIG版権の有効活用
	コンテンツの共同開発	<ul style="list-style-type: none">・両社のクリエイター・プロデューサーでのコンテンツ共同開発。・マッグの原作輩出ノウハウとIGの映像制作能力のシナジーを目指す。
	IGコンテンツの出版物化	<ul style="list-style-type: none">・IGコンテンツ資産の出版物をマッグから出版。・アニメのコミック化のみならず、様々な出版形態が想定可能

8.統合のスキーム

●現プロダクション・アイジーを持株会社化、（商号(株)IGポート（仮称））また会社分割を実施し、分割会社を(株)プロダクション・アイジーとして、事業のほとんどを承継。

●IGポート（仮称）は、株式交換により(株)マッグガーデンを100%子会社化。

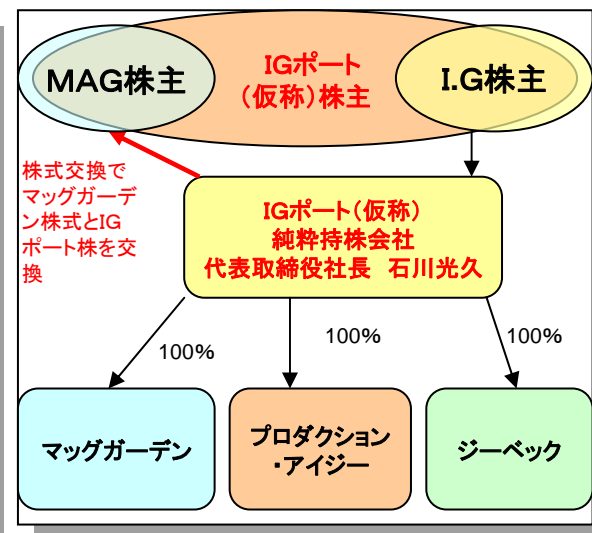
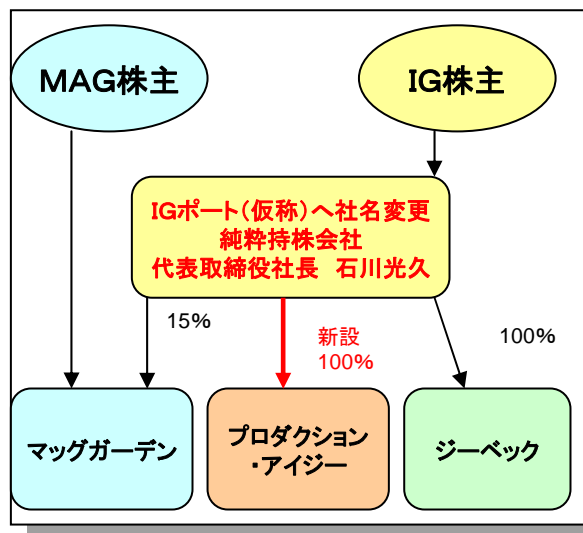
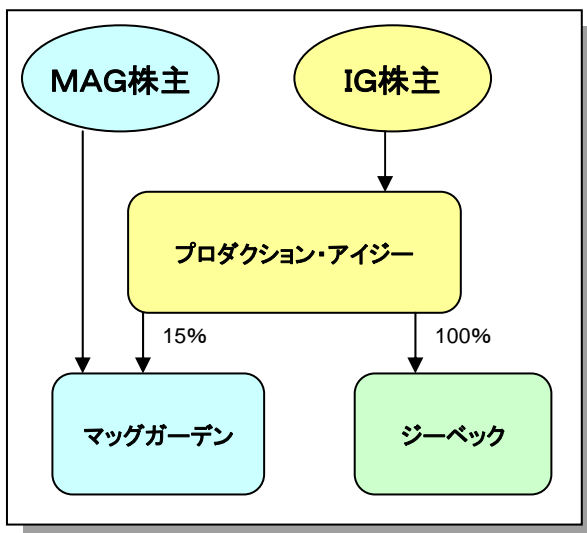
交換比率はアイジー 1：マッグ 0.5 となる。

●以後、IGポート（仮称）は持株会社として、グループ全体の経営戦略立案・発動と経営管理・リスクマネージメントを主に行う。

現 状

プロダクション・アイジー会社分割

株式交換による子会社化



9.持株会社 株式会社IGポート(仮称)の概要

社名	株式会社 IGポート(仮称)
本店所在地	東京都国分寺市
決算期	5月決算
上場取引所	JASDAQ証券取引所
代表取締役社長	石川 光久 (現 株式会社プロダクション・アイジー代表取締役社長)

※他の役員等、経営体制に関しては決定次第開示の予定

●「ポート(PORT)」とは、英語の「港」から命名した。

それぞれの会社を事業という航海に乗り出す「船」にたとえ、持株会社を戦略を立てる「港」という位置づけ、傘下の各社は実際の航海(事業)を行う「船」として戦術を担当する。

10.スケジュール

- 2007年7月4日 **基本合意書締結（両社取締役会）**
- 2007年7月13日 **株式交換契約書の締結（両社取締役会）**
- 2007年8月23日 **(株)プロダクション・アイジー定時株主総会**
（分割計画書・株式交換契約書承認）
- 2007年8月30日 **(株)マッグガーデン臨時株主総会**
（株式交換契約書承認）
- 2007年11月1日 **(株)プロダクション・アイジー会社分割効力発生日**
（分割登記・商号変更）
持株会社設立
- 2007年12月1日 **株式交換効力発生日**

注意事項

本書に記載した一切の記述内容は、両社と持株会社の現時点に関する現時点の入手可能な情報に基づき、一部主観的前提において合理的に判断したものであり、将来の結果は様々な要素により大きく異なる可能性がございますので御了承ください。